

よい仕事とは ～「笑顔のもとに笑顔が集まる」～

校長 三村 美 延

先日、埼玉県の校長を対象とした研修会で、落語家の林家たい平さんの講演を聴いてまいりました。演題は「笑顔のもとに笑顔が集まる」。講演はさすが落語家さんらしく私たちの笑いを誘いながら、教員にも通用する大切なことを話してくださいました。下積みの時代、楽屋でのお茶淹れが上手くなった頃に人間国宝の柳家小さん師匠から「目の前の一人を笑顔にできなければ、500人、1000人のお客様を喜ばすことはできないよ。」と言われたそうです。美味しいお茶を淹れて師匠が笑顔になることで笑顔が連鎖し、スタッフ皆でよい仕事ができる。お客様は公演を楽しみ、さらにそれぞれの家庭に帰って明日への活力となる。

なるほど。私は、講演会の演題がストンと腑に落ちました。そして、ある逸話を思い出しました。

旅人が町はずれの一本道を歩いていると、道端でレンガを積んでいる3人の男に会いました。旅人は3人の男に尋ねました。「何をしていますのですか。」

男A「レンガを積んでいるんだよ。暑い日も寒い日も朝から晩までやっているから大変だよ。」

男B「仕事です。賃金がもらえるので、家族みんなが生活できて有難いです。」

男C「大聖堂を作っています。完成すれば多くの信者の心の拠り所となり、多くの人が喜ぶでしょう。私はこの仕事に就けて幸せです。」

では、私たち教員は学校教育で何をしているのでしょうか。学力向上、道徳心のかん養、集団生活力の定着…。どれも正しくもあり、正しくもなさそうです。

本校では「豊かな心をもち、たくましく生きる児童の育成」を学校教育目標に掲げ、各学年学級が児童の発達段階に合わせて指導を行っています。指導は担任や専科教員等の教員だけでなく、ALT(外国語講師)や支援員*も行っており、時には保護者等の学習ボランティアに入っていただくこともあります。生活科や理科での栽培活動等では準備も含めて、用務員も大切な指導要員になります。さらにはSC(スクールカウンセラー)等の非常勤職員のほか、校外にも交通指導員や保護者・地域の防犯・見守りボランティアが大勢いらっしゃいます。こうした全ての人々が大きな目標を理解して仕事に誇りをもてるようにすることがよい仕事となり、子どもたちの成長につながっていくのでしょう。

*支援員として、スクールアシスタント(SA)、観察・実験アシスタント、ICT支援員等の様々な役割の方がいます。

本年度の学校経営方針を学校Webページで更新しました。ご一読いただき、地域一体となって「豊かな心をもち、たくましく生きる子どもたち」を育てまいりましょう。

令和5年6月